

## 2023-2024 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 3月

作成者：永井みちる

作成日：2024年4月10日

3月はイベントが盛りだくさんの忙しい一か月でした。今回は International night、インタビュー、Nursing Home の訪問、イースター、初めてのトルネードについてお知らせします。

### International Night

3月8日に、大学の大きなイベントであるインターナショナルナイトが開催されました。このイベントは、留学生が自国の文化を学生や地域の人々に紹介する場で、各国のブースでは料理が提供され、ステージでは様々なパフォーマンスが行われました。私たち日本人留学生は、焼きおにぎり、みたらし団子、味噌汁、お茶を提供しました。当日は大盛況で、用意していた200人分の食事をすべて配り切ることができました。また、ステージパフォーマンスではYOASOBIの「アイドル」という曲でヲタ芸を披露しました。ヲタ芸は、コンサートでファンがアイドルを応援するパフォーマンスです。日本のアニメや漫画などサブカルチャーはアメリカでも人気があり、ヲタ芸も新しい日本の文化の一つとして多くの人に楽しんでもらうことができました。また、台湾、韓国、日本出身の留学生8人でバンドを組み、韓国の曲「Please Tell Me Why」を演奏しました。この曲は中国語でカバーされたものもあり、自分たちで歌詞を組み合わせてたり翻訳したりして三か国語で披露しました。

このイベントには10か国以上が出店し、14組のグループがパフォーマンスを行い、フィンドレーの多様性と国際交流の豊かさを改めて実感しました。学生たちだけでなく、地域の方々も足を運んでくださり、世界の文化に興味を持ってくださったことを心から嬉しく思います。



ステージパフォーマンス集合写真



ヲタ芸

## インタビュー

スピーチの授業の課題で、二人の方にインタビューを行いました。スピーチのテーマは、自分が将来働く分野でのコミュニケーションの問題と解決方法で、その分野で働く方にインタビューする必要がありました。インタビューさせていただいたのは、フィンドレー大学の作業療法の助教であり、現役の作業療法士であるリサ先生と、大学のヘルスセンターで働く看護師のノエルさんです。初めてのインタビューでとても緊張していましたが、二人とも快く応じてくださり、丁寧に対応してくださいました。二人のお話を伺い、医療におけるコミュニケーションの重要性を再認識したと同時にその難しさも感じました。医療は医師や看護師だけでなく、作業療法士、ソーシャルワーカーなど、多職種が連携してチームとして働くことが重要です。リサ先生がおっしゃった、それぞれの職業の役割が違うからこそ、それぞれの主張があり意見が食い違うという話が印象的でした。学生のうちから、他の職種がどのような役割を担い、実際どのように働いているのかを知ることで理解深めることが必要だと感じました。臨床実習が始まる前に、こうして実際に働く方々のお話を直接伺うことができたのは素晴らしい経験でした。

## Nursing Home の訪問

授業の一環でナーシングホームを訪問させていただきました。日本の食べ物についてプレゼンテーションをし、そのあと折り紙を一緒に折りました。川村先生にアドバイスをいただき、プレゼンテーションをする中でも質問をたくさんし、話すことより聴くことを大切にしました。話すこと、聴くこと、どちらにも難しさを感じましたが、とても楽しかったです。



プレゼンテーションの様子

## イースター

3月最後の日曜日はイースターでした。イースターは、イエス・キリストが十字架にかけられてから3日目に復活したことを祝うキリスト教の祝日です。聖書は、イエス・キリストの死と復活によって、人間の罪が赦され、神との関係が修復されたと語ります。この出来事は聖書の中心的なストーリーで、イースターはクリスチャンにとって非常に大切なものです。大学では金曜日から月曜日まで授業が休みとなり、地域の教会では毎日のように礼拝が行われました。私は木曜日の夕方と日曜日の朝に礼拝に参加しました。友人によれば、アメリカでは普段教会に行かない人もクリスマスやイースターは家族で教会に行くことが多いそうで、日曜日の朝には普段よりも多くの方が教会に来ていました。また、金曜日と日曜日には教会で出会った方々が食事に招いてくださり、



イースターでは、エッグペイントやエッグハントをして楽しめます。

とても良い時間を過ごしました。クリスマスやサンクスギビングのような華やかさとはまた違った穏やかな雰囲気が町中に漂い、私にとってイースターが最も好きな祝日となりました。



キャンパス内にある教会に通うご夫婦が、  
留学生のバイブルスタディグループ  
をランチに招待してくださいました。



教会で知り合ったアンジェリーナさん。  
姪御さんはアニメが好きで  
日本語を独学で勉強しています。

### 初めてのトルネード

ダイニングホールで夕食をとっていると、携帯が一齐にアラームを鳴らし始めました。それは私にとって初めてのトルネードの警報でした。アメリカではトルネードは起こりやすい自然災害の1つで、トルネードが近づくと警報が鳴り、避難をしなければなりません。地下がある建物にいる場合は地下に行き、地下がない場合は一階の窓やガラスが少ないリビングルームやトイレに移動して、安全になるまで待ちます。ダイニングホールは窓が多く地下もないので、建物を移動する必要がありました。警報が鳴った直後に友人から電話があり、その友人の家の地下に1時間半ほど避難させてもらいました。電話がかかってきたときは、トルネードがどれほど危険であるかを理解していなかったため、「今すぐ家に来て」と言われて、思わず「何で？」と聞いてしまいました。幸いなことに、トルネードは大学を直撃しませんでした。初めての土地を訪れる際には、どのような災害が起こりうるかと、避難方法をあらかじめ調べておくことをお勧めします。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

nagaim@findlay.edu